



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 8

2022.10.5(No.3131)

再生・新生・共生

第2560地区ガバナー／高橋 秀樹
 会 長／西山 徳芳
 会長エレクト／吉井 直樹 (クラブ奉仕A)
 副 会 長／野崎喜一郎
 幹 事／梨 本 次 郎
 S A A／石 黒 良 行
 会 計／五十嵐博宣
 直 前 会 長／歸 山 肇
 会長ノミニ／渡 辺 良 一 (クラブ奉仕B)

例会日／毎週水曜日 12:30～
 例会場及び事務局／
 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
 E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (~はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

■本日の出席会員数:57名中38名
 ■先々週出席率:82.46%

【先週のメイクアップ】

[9.20] 分水RCへ

・小越憲泰さん

[9.22] 三条RACへ

・梨本次郎さん、相場弘介さん、
・山田富義さん、吉井直樹さん

[9.26] 三条南RCへ

・松永隆夫さん、斎藤弘文さん、
・石橋育於さん

[9.27] 三条北RCへ

・松永隆夫さん

[9.27] 地区大会記念ゴルフ大会

(新発田)へ

・相場弘介さん、杉山幸英さん、
・野崎喜一郎さん、丸山行彦さん、
・渡辺良一さん

[10.1] 赤い羽根共同募金 街頭募金へ

・松永一義さん

[10.3] 三条南RCへ

・小越憲泰さん、山田富義さん、
・斎藤弘文さん、落合孝夫さん、
・荻根澤隆雄さん、関川 博さん

[10.4] 三条北RCへ

・山田富義さん、荻根澤隆雄さん、
・中村和彦さん



会長挨拶

西山徳芳 会長



新潟県豪雨災害及び青森県大雨災害に関する支援金について、地区諮問委員会で改めてお願いすることが決まり、先に独自に支援することを理事・役員会で決めておりましたが、地区からの要請に応じて独自支援をやめ、地区に支援金を送ることにしました。

先月末は地区大会記念ゴルフ大会ご苦労様でした。

今日は嘉瀬一洋会員の卓話を楽しみにしております。

そして19日と20日は、いよいよ親睦旅行です。まだ間に合いますので、今日中にお申込みをお願いします。お待ちしております。

三条RCに以前アイヌル・アルファという米山記念奨学生がいたことがある。

彼女はマレーシア出身で長岡技術科学大学の学生だった。マレーシア出身でムスリム出身の彼女は(シーア派とスンニ派があるが)スンニ派で、学生生活においてもムスリム、つまりイスラム教の教えに従って生きていた。

イスラム教では政教分離でなく、すべてがイスラムの教えに基づいて生活している。勉学にやってくる彼女もすべてがそうになっている。

1日に何回かのお祈りは欠かせしてはならない。ラマダン

断食月になると、夜が明けて日が暮れるまで水を含めて一切の飲食が出来ない。明けた日は祝日ひとつで嬉しい日だ。

彼女が例会に出席する日はカウンセラーとして迎えに行くのだが、例会の直前にお昼の礼拝が始まる。当時、高橋会長の年度で高儀様の会議室を借りて彼女の昼の礼拝にお付き合いした。

昼の礼拝と言っても時間は厳密に決まっており、日の出と日暮れのちょうど中間の時間で、スマホで時間を読み取り、メッカの方向を定め、手を清め、持参したヨガマットに似ている専用の敷物を敷き、その上にひれ伏してお祈りするのである。それは絶対に変えてはならない勤めになる出来事で、食においても厳格な制限のもとに実行している。

例会に来ると奨学金を受け取るわけですが、その前に食事と言う関門がある、食事はイスラムの教えの中でもかなり厳格な教えがあり、ハラールという基準に従って食べ物を取る。教えの中で禁止されている不浄とされている豚肉は口にしないし、食べられるものでも、例えば鳥や羊は食べられるが、その処理においては厳格な処理方法を求められる。ちなみに東京都内にはハラールで作ったラーメンがあるそうです。クラブの昼食の中でも食事の前に蓋を開けて危なそうのものは全て手を付けないというような食べ方をしており、仏事でいただく精進料理とはまた違っていました。

食事でなくても引越しの際、禁止されている豚肉やハムを運んだようなトラックで荷物を運ぶことができない。どうしてもその車を使わなければならない時は、3回洗浄してから穢れを祓うお祈りをしなければならない。なかなか難しいものだそうです。



米山奨学生カウンセラーの石倉政雄さんに感謝状の授与

幹事報告

梨本次郎 幹事



◎2022年10月のロータリーレートは、1ドル145円です。

◎高橋ガバナー事務所より

「ガバナー月信 10月号発行のお知らせ」

「公式訪問の御礼」

「地区大会記念ゴルフ大会の御礼」

「メルボルン国際大会のご案内」

※本日ご案内と申込書を配布いたしました。

◎三条RACより

「10月第一例会のご案内」

日 時 10月13日(木) 19:30～

会 場 リサーチコア 4階・異業種交流室

ニコニコBOX

西山徳芳会長

嘉瀬一洋会員、卓話楽しみにしております。

散歩していると「キンモクセイ」の良い香がする季節になりました。秋晴が気持ちよいですね。

梨本次郎さん

先週の秋晴れの週末に北アルプスは、憧れの表銀座コースを歩いてきました。夢が叶いうれしいです。

本日は嘉瀬会員の卓話楽しみです。

嘉瀬一洋さん

入会間もない中、このような機会を頂き有難うございます。今後とも宜しくお願い致します。

吉井直樹さん

秋の味覚が楽しい時期となりました。旅をしながら味わいたいと思います。

本日、嘉瀬さん宜しく申し上げます。

小出子恵出さん

いちょうが色付き、ぎんなんが歩道に。あの暑さはどこへ。

渡辺良一さん

ゴルフ・旅行のシーズンになりました！ 楽しいことがいっぱいです。

嘉瀬さん、卓話楽しみにしています。

野崎喜一郎さん

旅行の日程表が来ました。楽しい旅行になることを期待しています。

高橋俊樹さん

久しぶりの例会参加になります。
これからも宜しくお願いします。

山田富義さん、松平隆行さん、石橋育於さん、
丸山行彦さん、早川滝徳さん、寒河江勝俊さん、
五十嵐博宣さん、安達俊明さん

よいことがありました。スマイルボックスに協力いたします。

渡部 宏さん、松永一義さん、渋谷政道さん、
飯塚一樹さん、高橋 司さん、相場弘介さん、
明田川賢一さん、金子俊郎さん、若槻八十彦さん、
小越憲泰さん、杉山幸英さん、歸山 肇さん、
石倉政雄さん、落合孝夫さん、石黒良行さん、
船越良則さん、小林卓哉さん、小林吾郎さん

嘉瀬会員、本日は卓話ありがとうございます。
お話楽しみにしております。

10月5日分 ￥ 35,000
今年度累計 ￥ 292,000



「卓話」

嘉瀬一洋 会員

【我が家の成り立ち】



今年の7月より歴史と伝統のある三条ロータリークラブに入会させて頂きました嘉瀬一洋と申します。本日は、新入会員としての卓話をさせて頂くという貴重な機会を頂戴し、大変光栄であります。本日は、私の経歴や仕事の内容などについてお話しさせていただきます。

わたしの実家は一ノ木戸で代々商売をやってきた家系です。祖父は27歳の時に大東亜戦争でフィリピンにて戦死、一人息子を抱えて残された祖母は、弟(1990年34代三条RC会長を務めた小林九満太さん)と共に嘉瀬家の資産を元手に昭和28年に証券業の免許を取得し三條証券を設立しました。その後、私の生まれる半年前(1968年5月)に、今度は三条で初となる5階建ての近代ビルを建設し、そこに家業である(株)三條証券が入居し、更に飲食業も手掛けて三条吉野茶屋をオープンさせたそうです。

外交官になりたかったという父は、東京外語大学を卒業した後、東京の証券会社で修業をして母と出会い、25歳の時に三条に帰ってきました。設立間もない三条青年会議所にも入会し、昼は三條証券、夜は吉野茶屋で昼夜問わず働き続けたようです。優秀でバイタリティある男であったと様々な方達から父の話をお聞きして、超えられない存在として父に対するコンプレックスを抱えたこともありました。さて、本業とは全く異業種となる吉野茶屋ですが、素人が飲食業に進出ですから上手くいくはずがありません。開業して1年程で飲食業から撤退する事を決断したそうです。そんな中で心労が祟ったのか今度は父が胃ガンで27歳という若さで他界する事になります。当時、私は2歳、未亡人となった母は25歳、弟は母親のお腹の中でした。親子2代に渡って27歳という若さで他界したことにより、事業の失敗だけにとどまらず莫大な相続税がのしかかってきたそうです。その後、祖母の弟が社長を務めた三條証券は、日本の高度経済成長の中で次第に拡大していき、加茂支店も含め50名の従業員が働く会社へと成長していきました。そのお陰で、母子家庭であった私たち兄弟共に、資金的な面で心配することなく過ごす事が出来ました。母子家庭という事もあるのか、幼少期の頃はかなり腕白で、中学に入る頃までは先生方をはじめ周囲に多大なる迷惑をおかけするような子どもでした。(笑) そんな悪童が、中学生のある時に本気で叱ってくれる母親の涙を見て改心し、それまでの友人関係がガラリと変わり

ました。(ここからは少々割愛します)

【価値観が変わったイスラエル留学】

さて、高校卒業後は千葉商科大学に入学し、バブル真っ只中な花の都で遊びに明け暮れる毎日でした。しかし、就活を控えた大学3年の終わりになると、このまま社会に出てゆくだけで良いのだろうかと自問自答しつつ自分探しの旅を1年間する事になります。この時の体験が私の人間形成の大きなターニングポイントとなります。行先はイスラエルでした。ユダヤ教・イスラム教・キリスト教の三大宗教の聖地であり、キブツ(集団農場)で労働を提供する事で衣食住が担保されるという仕組みも素晴らしいものでした。何もかもが新鮮でした。中でもロシア人と共に働いた「牛飼い」の仕事は忘れられません。200頭の牛を放牧し、その後牛舎に入れて搾乳するという仕事でした。母牛のお産も体験し、命の尊さを目の当たりにした経験や、朝の4時から放牧の準備をするのですが、毎日当然のように遅刻してくるロシア人との仕事では国柄の違いを痛感しました。また、アラブ諸国に囲まれたイスラエルでは18歳から兵役があり、国を守るという事が国民に等しく浸透している事をあちらこちらで感じます。バス停に置き忘れたリュックサックがあった際、持主が見つからず通報を受けた軍人達が周囲を瞬時に囲み対処した場面は衝撃でした。また、日本への出国検査の際にはスーツケース内の全て(パンツまで)を調べられます。安全と水がタダな国は世界中で日本だけだと思います。敗戦後の洗脳教育で平和ボケしてしまった祖国を憂う気持ちになったのは、この留学経験があったからです。イスラエルでは「死」を覚悟した経験が2回ありました。紀元前からのユダヤ教の歴史を有するイスラエルは遺跡だらけです。危険だから行かないようにと言われていたガザ地区に遺跡を見に行った際に少年たち(5歳~18歳くらい)20名ほどに囲まれました。顔をスカーフでぐるぐる巻きに隠した少年たち数名の手にはサバイバルナイフがあり、不敵な笑いを浮かべながらついて来いとイスラム語で促されて廃墟となった建物に連れていかれました。一緒にいたイフタフは、恐ろしさのあまり足の震えが止まらないままにゼンマイ仕掛けの玩具のような歩き方で、それが妙に可笑しく笑ってしまった事が思い出されます。(ここからは割愛します)

【証券会社に就職】

大学卒業後は準大手証券であった第一証券(現:東京三菱UFJモルガンスタンレー証券)へ入社し、新宿支店・西宮支店で修行させて頂きました。当時

は朝から夕方まで担当地区を片っ端からローラー訪問するベタな営業スタイルでした。全国各地に配属された同期入社組の個人成績は、毎月の成績表で公表されるという正に入社から競争を刷り込まれる業界でした。先輩社員には「数字が人格」とであると教えられ、毎日100件近く飛び込み営業をする毎日を送りました。真夏でもスーツを着込んでの営業でしたから、肩部分の縫い目には塩が結晶となり白い柄のようになる様は今でも忘れられません。負けず嫌いな性格ですからトコトン頑張りましたが、残念ながら同期入社では2位の成績でした。

バブル崩壊後の新宿支店での出来事で忘れられないのが、端株を売却される法人のお客様を訪問した際の出来事です。数十銘柄の端株をお預かりしましたが、驚いたのは私が手にしている端株が3億円近くの価値ある端株だったという事です。お預かりした数か月後に、そのお客様が倒産となりましたが日本を揺るがした住宅専門会社の一つでした。スケールの大きな仕事が都会にはある事を目の当たりにしました。その後、東京から関西への転勤となり西宮支店へ行く事になりました。阪神大震災の翌年という事もあり、街はまだ未整備となっている部分が多々ありました。仮設住宅に住んでいるのに金融資産が手厚くあるお客様が大量にいることも驚きでした。この関西勤務の時期に、同期入社であった妻と出会い結婚しました。関西での仕事は1年間だけと決めていた私はその後退職し実家の証券会社へ戻りました。

【実家のある三条へ戻る】

家業に入るにあたり、心配してくれたある先輩が、「大混乱な地場証券の家業に戻る嘉瀬君に、友人が大蔵省で働くキャリアを紹介してくれるそうだから、良きアドバイスをもらおうと良い」と紹介して下さいました。その友人というのが西村康稔(現経済産業大臣)さんでした。そして紹介された大蔵省の田中卓司さんは、数年前まで三条税務署長を歴任された御仁であったので本当に驚きでした。お会いした際に、不躰ながらも色々とお聞きした結果、大蔵省は金融機関の統廃合を更に進め大手資本に集約させる方向で考えているように思えました。中小零細の地場証券は相当な自助努力が無いと耐えることが出来ない荒波が予感されましたが、大都会での営業を経験してきた自信と妙な期待感もありました。

さて、私が三条に戻り三條証券に入社したのが平成8年でした。バブル崩壊後の証券業界は、相場の低迷で収益が上がらないといったこと以上に、ネット証券の登場で業界には過去に経験した事のない荒波が押し寄せていました。収益源である売買

手数料がネット売買を通じて激減しました。それも10分の1といった容赦なき値下がりです。バブルを謳歌した業種が、瞬間に斜陽産業の代表となってしまうました。中小の地場証券が抗っても到底太刀打ちできるものではありません。業界内では倒産、合併が当たり前となり、そんな状況下の中に帰っていったのです。証券業界は、お客様の資産をお預かりする性質上、自己資本規制比率が200%を下回ると行政指導が入るという財務面では非常に厳しい業界です。減収で赤字経営が続いた際には増資が義務付けられていました。増資は7割近い株式を保有する筆頭株主という事で我が家が追加出資する事が当然のような状況です。そんな経営姿勢に疑問を感じ、収益の改善を図る抜本的な改革が必要だと経営会議を行い、改革案を出しても「いつか良くなる」「相場には浮き沈みがあるからしょうがない」「我慢が大切」と話にならない状況です。確かに40年間に渡って、経営を切り盛りしてきて頂いた経営者としての姿勢には感謝でしたが、時代が大きく変わる中での認識の違いには驚かされるばかりでした。何とかなる時代から、ネットを通じた大変革時代への潮目を強く感じていた私は、何度となく会長に改革案の提案を行いました。取締役会も機能しないまま平行線で時間だけが過ぎていきました。次期経営者として家業の会社に入社して、「いつかは君が継いでいくのだから」と言われていましたが、年齢が40近くも違う若造から、あれやこれやと改革案を出されたら我慢できないのも当然であると今では感じています。しかし28歳ではありましたが、父や祖父が他界した年齢を超えて生かされているといった自覚のあった私も真剣でした。収益悪化による追加増資を受け続けてゆけば、家としての資産も全て失う事に成りかねないと感じ、自らが身を引くことを決意しました。ドラマにあるような株主による臨時決議で「代表者の解任！」との選択肢も考えましたが、恩義に反する行動は控えるようにと諭され、自らが実家の会社を去ることになりました。この時の祖母の落胆ぶりは忘れられません。

【実家を去ってエフピーエムへ】

退職後は、メリルリンチ証券かプルデンシャル生命のどちらかにお世話になろうと考えていましたが、母の強い勧めで今の会社の会長である小林幹扶氏に会う事になりました。小林(現エフピーエム会長)は、三條証券の経理を担当していた経理事務所に当時(昭和40年～)は勤務していて、父とも年齢が近く気心の知れた仲だったそうです。「いつかは経理事務所を辞めてうちの経理責任者になって欲しい」と父から誘われた仲だったそうです。その後、

経理事務所を辞め損害保険の研修生となり、スーパー営業マンとして実績を残し、個人から法人代理店に移行して間もない頃でした。「生命保険か証券業か、自らの実力が試せるどちらかの仕事に就こうと考えています」との私の想いを伝え相談に伺った際に、「うちの会社なら損保だけじゃなく生命保険も扱っているし、経理の事なら俺が何でも教えてやるぞ」との言葉が入社のきっかけになりました。また当時はあまり認知されていなかったFP業務を目指している事も響きましたし、何よりもお会いした時の人柄に惹かれました。エフピーエム入社にあたり三條証券在籍の際に入会した燕三条青年会議所は、当然辞めなければならないと思っていましたが、「世のため人の為になる活動なら、仕事に影響が無いようなら続けなさい」との言葉をかけてもらい、継続して活動する事になりました。

入社してからは、生命保険を中心に飛び込み営業の毎日でしたが、収益ありきの回転売買が当たり前であった証券業界からすると、お客様のニーズに合わせた商品を提供する事で手数料を頂戴出来ることには非常にやりがいを感じました。また、大阪から三条に嫁いできた妻を路頭に迷わす事は出来ないとの想いや、「若気の至りで実家を飛び出した」との噂に対する反骨精神も相まって正に水を得た魚のように毎日を過ごしました。お客様を第一に考えて商品提供をする！という事がエフピーエムの第一義とする精神でした。多かれ少なかれ保険商品を販売した後は手数料はついてくるという価値観、倫理観が私の本気さに拍車をかけました。この精神は、会長である小林の実家で信奉していたモラロジー(道徳教育)が根底にあったから成しえたことだと思います。私が入社した頃のエフピーエムは5名体制で、損害保険は大東京海上火災、生命保険は3社の窓口(アクサ・アフラック・ING)を行う代理店として活動していました。お客様のすそ野が広がるにつれて次第に扱う保険会社も増えていきました。(現在14社)

収益基盤の拡大により会社には余力も出てきました。手数料率の高さであちらこちらに転職や起業し、中途採用が当たり前な代理店業界でしたが、この職種で最も大切な事は「品性とネットワーク」であります。道徳精神を重んずる小林と、青年会議所にて学んだ「まちづくり」「ひとづくり」の精神も加わって代理店としては当時では考えられなかった新卒採用を行い始めました。新卒第一号の知野学君は、今では私の右腕として専務取締役を務めてくれています。業務も順調に推移し、新入社員として入社したメンバーは、「手数料を意識した過度な販売が発覚したら解雇する」とのエフピーエム精神を

しっかりと受け継ぎ次第に業務拡大となっていきました。その後、2000年には証券業務(投資信託の販売)にも舵を切りました。過度なる回転売買ではなく、毎月の積立投資で資産を増やしていくという当時ではあまり馴染みのなかったスタイルを先駆して推奨しました。現在では楽天証券の県内唯一の窓口として金融商品仲介業者として活動しています。投資教育の啓蒙活動として、さわかみ投信の澤上社長、ひふみ投信の藤野さんを講師に招いた講演会を主催したりもしました。最近では、子ども達への投資教育として「キッズマネースクール」も開校しています。また、中小零細企業が多いこの地域で、なかなか導入が進んでいなかった401K(確定拠出年金)を導入しようと全国でも希な地域版確定拠出年金(FPとつくる燕三条年金積立プラン)の代表事業主として県内約50社の取りまとめ役をさせて頂いています。中小零細企業に所属する従業員の方たちへ、老後の備えに対する福利厚生のお手伝いをさせて頂くのは、社員の遣り甲斐にもつながっています。

【青年会議所との出会い】

さて、13年間在籍する事になった青年会議所(JC)は本当に多くの事を学ばせてもらいました。卒業年度となる2008年には思いもよらず理事長職を賜ることになりました。当初、サラリーマンでは理事長は到底出来るものでは無いと辞退するつもりでしたが、「誰もが出来る役職ではない、周囲から推されているならば是非やりなさい」との小林会長からの勧めもありましたが、JC活動に日夜邁進し過ぎた私のJC卒業を心待ちにしていた妻が到底許すはずがありません(笑)そんな中、会長が妻に「男が男に慕われて役職を賜るのだからどうか認めてやって欲しい、休みも取れるように会社でも応援する」と便箋2枚びっしりと手紙を書いてくれました。これには妻も賛同せざるを得ませんでした。さて、理事長職を賜ったこの年は、全ては地域の子どものため!と銘打って「寺子屋つばさ事業」(燕市の「つば」、三条市の「さ」)を行いました。本来は、リーダー論や地域開発、マネジメント等を学ぶはずのJC活動でしたから、組織論的に言えばNGな活動であったかも知れませんが、未来への「ひとづくり」

に100%の舵を切って全員一丸となって活動する年となりました。あれから15年経った今でも別団体として継続しているのが「寺子屋つばさ100km徒歩の旅」「はらぺこ塾」等の青少年育成事業です。

「100km徒歩の旅」は、4泊5日をかけて自らの足で自分たちの住む町を限界突破で歩き抜く実践体験事業です。参加した子ども達が、未来の燕三条地域を担う人材に育てて欲しいという願いから、「ひとづくり」の為の事業としてスタートしました。子ども達を導くのは大学生スタッフに任せますので、ゴールデンウィーク明けから毎週末に開催される約200時間の研修を通じて、参加する子ども達の命を預かる事業であることを意識させ、危機管理や子ども達とのコミュニケーション能力を鍛えていきます。参加する子ども達には、親元を離れた5日間で、自らの限界に挑戦し、困難を乗り越え、自分で考え、表現し、行動する「生きる力」を身につけてもらうきっかけづくりとします。生涯残るような実践体験を通じて子ども達にとってかけがえのない体験と感動が得られる事業です。この事業は、子ども達が主役のように思えますが、最大の受益者は大学生です。誰かに必要とされる経験を学生時代にする学生達は、良き家庭を築いていってくれることと思います。過去に参加した小学生が、現在では中高生スタッフや大学生スタッフとしても関わってくれています。コロナ禍な今回は、土日開催(1泊2日)であった為、社会人となった学生OBOGも数多くお手伝いに参加してくれました。JCで学んだところの「ひとづくり」のベルトコンベアーがようやく回りだしてきました。やがて、彼らの子ども達が参加してくれることが待ち遠しくなりません。



次週例会 10月19日 19日(水)~20日(木)
「親睦旅行」

次々週例会 10月26日 「ライラ研修報告」
小林卓哉 青少年奉仕委員長

